

健診と外国語

山本森弘医師



健診をしていますと、中国、ブラジル、ベトナムの受診者の方を診察することが有ります。彼らに英語は余り通じません。ではどうしているのか？

中国の方とは漢字と身振り手振りで会話しています。健診では頸部の触診をしますが、その際嚥下してもらっています。中国の方には日本語の「唾を飲んでください」は全く通じません。以前嚥下するは中国語でも嚥下と書くとずっと思っていました。しかし嚥下と書いてもあまり通じなかったのです。変だな、と思い調べてみました。嚥下は中国語では吞下と書くことを知りました。それ以後暫くは吞下と書いて、嚥下してもらえるようになりました。

しかしこの吞下でも通じない方が稀におられます。私は医師なので唾を飲む＝嚥下する、であるのが当たり前だと思っていますが、日本人でも唾を飲む＝？の方がいます。そこで中国語で「唾を飲んで下さい」を示す清喝吐（清は当て字、実際は日本語に無い漢字が先頭に有ります。）と書いてみました。暫くはそれで通じていましたが、清喝吐も分からない方がいました。その方は清喝吐を知らないが、吞下では無く咽下だと教えてくれました。その結果、現在は清喝吐、吞下、咽下の三つを使って何とか会話しています。

ブラジルの方の母国語はポルトガル語です。ブラジルの方

には日本語の「唾を飲んで下さい」が分かる方が多いので助かります。ある時日本語ができる方に、調べてきた **andorinha** (嚥下する) と云う単語を示しながら、「唾を飲む」はこう書くのですね、と訊いてみました。しかしそんな単語は見たこともない、と言われました。えっ、では何と云うのですか、と訊きますと **engolir** だ、と言われました。**andorinha** と **engolir** では全く違う単語です。後から考えてみると **andorinha** はもしかしたら医学用語なのかもしれないと思いました。だとしたら、一般的な単語ではなく、知らない人がいても不思議ではありません。

その後は日本語が分からない方には **engolir** かその名詞形である **engula** を使って **Por favor engula.** と書いてきました。これで暫くは通じていたのですが、先日日本語があまり分からない方を診察した時に **Por favor engula.** と書いても、**engolir** と書いても分からないと言われました。もしかしたらと思い、咄嗟にイタリア語で「唾を飲んで下さい」を表す **Per favore, beva la saliva.** と書きました。これ分かりますか、と訊ねたところ、分かると言われました。そうかブラジルの方にもこの人のように「嚥下する」と云う単語を知らずに生きてきた人がいるのだなと理解しました。因みにポルトガル語の「唾を飲んで下さい」は **Por favor beba saliva.** です。イタリア語にそっくりです。二つの言語はラテン語由来の姉妹言語ですから当たり前です。

ベトナムの方には日本語の「唾を飲んで下さい」は余り通じません。日本語が通じない場合はベトナム語の単語を書いて会話しています。「嚥下して下さい」は **Hay nuot.** (正確な綴りではありません。フランス語で云うところの鼻母音を示す記号が **a** の上に付き、**o** の上にも記号が付いています。) と書きます。ベトナムの方には「嚥下して下さい」のベトナム

ム語が 100%通じます。国によって、「嚙下して下さい」、が通じたり、「唾を飲んで下さい」、が通じたりいろいろあって外国語は面白いです。

以前中途半端に英語以外の言語を勉強するくらいなら、英語のレベルを上げるように努力すべきだ、と何処かで読んだ記憶が有ります。しかしこれは間違いだと思います。中国、ブラジル、ベトナムの受診者の方とは英語で会話は余りできません。「嚙下して下さい」を意味するベトナム語を書いてあげると、ベトナム語が分かるのですか？と驚かれます。単語を調べました、と答えると嬉しそうな顔をします。単語を知っていて良かったと思うこと度々です。